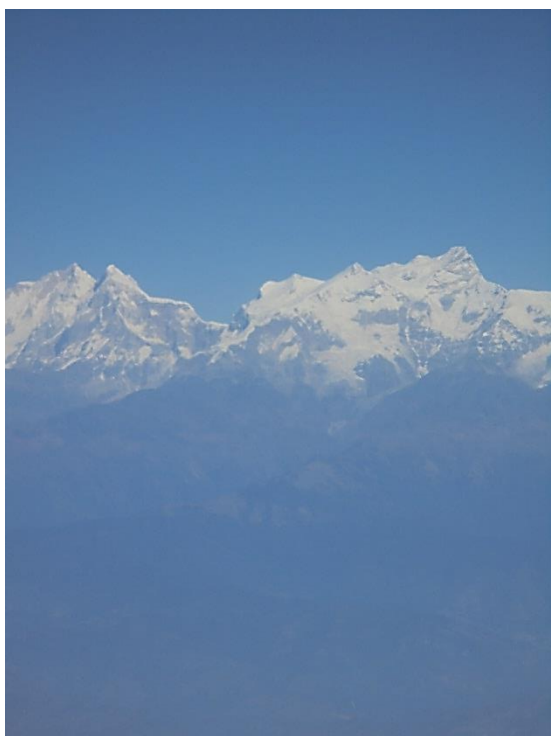


ネパール国医療技術支援報告（2016年11月13日-17日）

脳神経外科 有田和徳

11月13日-17日にネパール国に医療技術支援に行ってきました。主な目的は、本年4月にマノズ・ボハラ、プラサンナ・ボハラ夫妻が赴任したネパールガンジ医科大学分院における脳外科の立ち上げを支援することです。現地支援は本年5月(有田)、8月(時村、山畑)に続いて3回目になります。今回は、マイクロサージャリーのセッティングを確認し、技術移転を行いました。以下がアクティビティー・レポートです。4日間とも快晴に恵まれ、13回目（?正確には不明）のネパール訪問で初めて、ヒマラヤの山々を間近にみる事が出来ました。



11月13日 午後カトマンズ着—ネパールガンジへ

11月13日 夕 ネパールガンジ空港着。打ち合わせ。研究指導

11月14日 朝 回診

午後 右三叉神経痛の男性を手術

10年間の病歴を有する右三叉神経痛の患者さんで、現在 Tegretol 1000mg を服用しているにもかかわらず、激的な痛みが襲っている。MRI では右三叉神経根部を右上小脳動脈が圧迫している。体位は安全性を考慮して仰臥位とした。通常より少し大きめの皮膚切開でしたが、基本的にマノズ・ボハラ医師が執刀、問題なく手術を終了。ただし、フィブリン糊がないので、筋肉片で上小脳動脈を移動し固定しました。手術翌日から長年の三叉神経痛から解放され、患者さんは新たな人生が開けました。



MRI：右三叉神経を強く圧迫する上小脳動脈、
(赤矢印)

手術体位：仰臥位で頭部を左に旋回

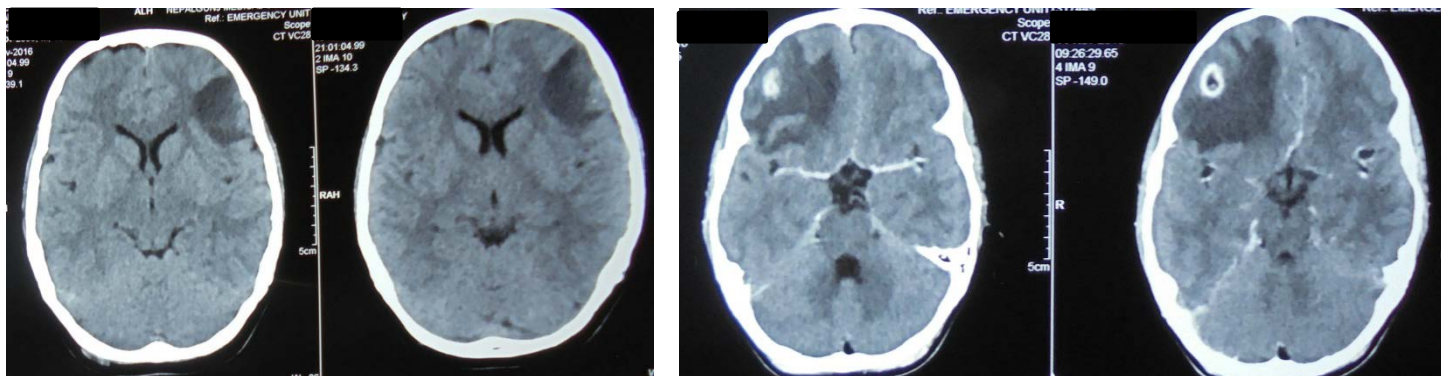


執刀する帰国留学生のボハラ医師（右側）



手術翌日 ICU で

11月15日 朝夕 回診後、外来。43人に外来患者のうち30人が新患。頭痛、めまい、痙攣など一次医療の対象が多い。Neurocysticercosisも多く、この日だけで3人を診断。



痙攣で発症した13歳男児(cysticercosis)

痙攣で発症した10歳男児(cysticercosis)

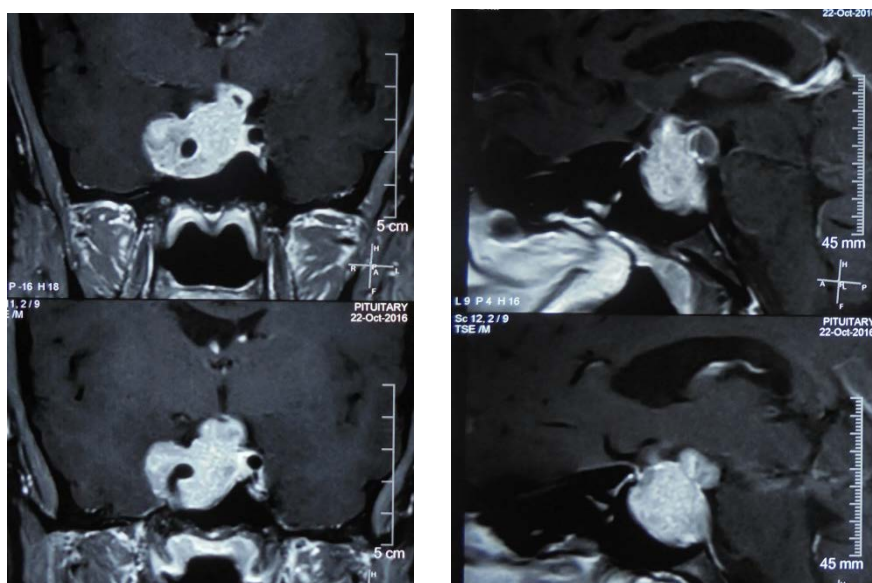
11月15日 午後 院長(managing director)の Dr. SK, Konodia 先生 (外科医) に会って脳神経外科への支援を御願いし、また鹿児島大学医学部との学部間協定の発展について議論しました。この場で、脳外科手術顕微鏡のモニター一式と記録装置の新規購入等を約束していただきました。

11月16日 朝回診後、夕方まで外来。

この日は、若年女性の松果体腫瘍の手術予定でしたが、発熱と心房細動のため、中止。この日も外来40人。

11月17日 午前、カトマンヅに移動後、アンナプルナ病院で外来

昼から浸潤性の下垂体腺腫の手術。久しぶりに上口唇経由顕微鏡下経蝶形骨洞手術。



11月17日夜、久しぶりに広島大学時代の帰国留学生と歓談。今後のネパール国における脳外科の発展について情報交換、意見交換。



以上